

小出裕章さん講演会と

映画「シロウオ～原発立地を断念させた町」上映会

10月11日午後1時よりクレオ大阪西ホールにおいて、小出裕章さん（京都大学原子炉研究所助教）講演会と映画シロウオの上映会を新聞うずみ火、DAYS JAPAN 関西サポーターズクラブの共催、JR 西日本労働組合、JR 貨物鉄道労働組合関西地方本部、JR 東海労同組合新幹線関西地本、アジアプレス大阪事務所、コラボ玉造、市民社会フォーラムの協賛で開催して大成功に終わりました。



映画「シロウオ」では、いまから30年以上前の1980年代、原発の誘致計画に対して、異を唱えた住民たちが反対運動によって計画を阻止した2つの町（紀伊水道を挟んで相対する和歌山県日高町と徳島県蒲生田）の今を取材したドキュメンタリーが上映されました。反対運動に関わった当時の住民10数名の証言を中心に、地域繁栄とは、土地に生きるとは、未来をつくるとは何かを問いかけました。

（シロウオ：かさこ監督）

「福島第一原発事故がもたらした社会状況と私たちの生き方」



原発訴訟では、5月21日に福井地裁による関西電力大飯原子力発電所の運転差し止め裁判の判決が言い渡されました。原子力発電所に求められるべき安全性は「万一の場合にも放射性物質の危険から国民を守るべく万全の措置がとられなければならない」というものでした。2011年3月11日に世界を震撼させる原発事故が福島第一原子力発電所で起きました。当時運転中だった1号機から3号機の溶け落ちた炉心が今現在でもどうなっているのか分からない状態で、ひたすら大量の水を注入し冷やす一方で大量の放射性物質を流しています。私たちは原発を許してきた大人として未来の子や孫たちのために、今こそ原発NO！を訴え続けていかなければなりません。

（小出裕章助教）